

令和3年度都城市立西小学校学校評価書

1 学校の教育目標

- 豊かな心と自ら学ぶ意欲をもち、積極的にねばり強くがんばる児童の育成

2 学校経営ビジョン

「教育は人をはじめとする環境なり」を基本理念として、教育者としての自覚と責任をもち、児童の実態及び保護者や地域の願いを十分に把握し、

- ① 確かな児童理解に努め、「チーム西」で校風を醸成する学校経営
- ② 教育活動の一步前進に努め、「目指す児童像」の具現化を図る学校経営
- ③ 家庭・地域との連携に努め、信頼関係を築く学校経営
- ④ 三校（西中、明和小、西小）の連携に努め、小中一貫教育の結果を出す学校経営
- ⑤ 働き方改革を推進し、居心地のよい職場を実現する学校経営

を推進する。

【確かな学力向上対策の推進】（知）	【心の教育の充実と積極的な生徒指導の確立】（徳）	【生命尊重を基盤とした体力の向上・健康的な生活習慣の確立】（体）	【地域との連携による開かれた学校づくりの推進】（ふるさと教育）
1 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組 2 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善 3 保護者との連携を密にした家庭学習の充実 4 生涯読書活動の推進	1 基本的な生活習慣の確立 2 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開 3 他校（さくら聴覚支援学校、吉之元小、西岳小）との交流活動の推進 4 西小のよい校風（西風）の醸成	1 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進 2 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成 3 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進	1 情報提供の充実（HPの積極的更新と学校便りの定期的発行） 2 学校運営協議会の機能充実 3 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化

3 達成状況評価基準

- 5段階評価 … A（100～80%） B（79～60%） C（59～40%） D（39%未満）

※ 到達度は教職員と児童の到達度の平均

4 自己評価結果

評価項目	評価指標	自己評価項目	到達度(%)	評価	総合評価	◇成果 ◆課題・改善策
学力の向上	○ 基礎的・基本的な内容の習熟と実態に即した発展的な学習内容への積極的な取組	・ 学習事項の習熟や定着の時間を確保している。	87	A	A	◇学習内容の定着を意識した授業を展開することができた。
	○ 「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善	・ 児童が学び合う指導過程を工夫し、分かる授業に努めている。	91	A		◇今年度は児童の表現力を高めるための授業改善チェックポイントを活用した。児童が自分の考えをもち、適切に表現を行うより深い授業を展開することができた。
		・ 基本的な学習習慣の確立に努めている。	85			
	○ 保護者との連携を密にした家庭学習の充実	・ 家庭学習の充実に努めている。	83	A		◆「家庭学習のてびき」の活用を年度初めだけでなく、参観日の懇談資料として配付し、定期的に啓発を図っていく。
○ 生涯読書活動の推進	・ 読書活動の推進と語彙力の向上を図るため、学期目標冊数以上の達成を目指している。	69	B	◆コロナ対策により貸し出しの時間を短縮したため、児童の図書室利用の時間が減り目標貸し出し冊数が伸び悩んだ。日常の授業においても図書室利用を積極的に図るようにする。		

心の教育の充実	○ 基本的な生活習慣の確立（西小のよい校風「西風」の醸成）	・ 「いじめ0」「気持ちのよいあいさつ・言葉遣い・態度」「けじめ」	91	A	A	◇「いじめ0」については、今後も観察を続け、情報交換を行うことによりいじめを未然に防いでいく。 ◇「けじめ」について、授業開始2分前着席等、時間のけじめはついている。 ◆「けじめ」について廊下歩行等場所のけじめがつかないところがある。全職員での共通指導を行い改善を図る。 ◆「あいさつ」があまりできていないので、あいさつ運動や常時指導をしていく。呼ばれたときの返事も徹底していく。 ◆コロナ禍で大きな声であいさつする場がなくなっており、評価が難しいところがある。
	○ 生徒指導の三機能を生かした教育活動の展開	・ 「道徳科」における体験学習の指導や方法の工夫改善を図っている。	75	B		◆道徳ノートの活用等、道徳科の指導方法の工夫・改善を行っているが、学習内容によって体験学習を設定していない時間もあるので、評価の数値が低くなっていると考えられる。今後も、学習内容に応じた指導方法の工夫・改善を図っていく。
	○ 他校（さくら聴覚支援学校、吉之元小、西岳小）との交流活動の推進	・ 同学年や他学年、交流学級の友だちとの交流活動を通し、互いを尊重しながら共生することの大切さを実感できる児童を育成している。	85	A		◇校内における学級・学年間の交流や、特別支援学級と交流学級の交流は行うことができている。 ◆西岳・吉之元小との交流活動は、6年生は児童が交流できることを考えた活動ができたが、他学年と一緒に授業を受けただけだった。西小の児童にとって本当に交流になっているのか、ねらいも含めて再検討する必要がある。
命を守る力の向上	○ 体力向上プランを基にした体育の時間の指導の充実と日常的な運動の推進	・ 体育の時間の運動量の確保に努めている。	85	B	B	◇年間指導計画に沿って、体育の全領域を経験させ、運動量確保につなげた。 ◇昼休みの体育館開放等、日常的な運動につながる取組を行うことができた。 ◆体育主任が中心となり、共通理解や授業力の向上等、各学年との連携を図っていく。
		・ 日常的に運動意欲が高まるように声かけや環境整備に取り組んでいる。	71			
	○ 家庭と連携した健康的な生活習慣（早寝早起き朝ごはん）の確立及び安全意識の醸成	・ 家庭と連携した健康的な生活習慣の確立に努めている。	70	B		◇学校保健委員会では、保護者と6年生児童を対象に講演会を行い、睡眠の大切さについて理解を深めることができた。 ◇参観日の懇談において、睡眠についての話題を提供し、意識付けを図ることができた。 ◆家庭との連携について、保健だよりを中心に今後も継続して取り組んでいく。
		・ 家庭と連携した安全意識の確立に努めている。	86			
		・ むし歯の治療率70%を目指している。	80			
○ 家庭と連携した食に関する指導及び立腰指導の推進	・ 家庭と連携した食育指導に取り組んでいる。	70	B	◆2学期の遠足の日に「弁当の日」の取組を行ったが、5・6年生は宿泊学習や修学旅行で取組ませることができなかった。 ◆立腰や食育に関する指導資料（特に動画）の充実を図る必要がある。通信等でも話題にしている。		
	・ 家庭と連携した立腰指導に取り組んでいる。	58				
地域との連携充実	○ 情報提供の充実（HPの積極的更新と学校便りの定期的発行）	・ 地域の方へ積極的に教育活動の公開に努めている。	43	C	C	◇研修や学年会等を活用し、ホームページ作成の時間を確保することにより、更新を図ることができた。 ◆普段から学習や活動の様子を画像に記録することを心がけ、積極的な公開に努めていく。
	○ 学校運営協議会の機能充実	・ 地域素材・人材の積極的な活用を図り、教育効果を高めている。	58	C		◇例年全学年日曜日に行っていた地域学習を、平日に各学年で分散するなどし、コロナの状況に合わせてながら、地域との連携を活用した活動を行うことができた。 ◇児童からのお礼のメッセージなど、よい交流ができた。 ◆できれば保護者にも活動の様子を見てもらうなど、取組の周知の機会を設けていく。
	○ 三校（西中、明和小、西小）及び地域関係団体との積極的な連携強化	・ 横市地区小中一貫教育推進会議で取り決めた「共通実践事項及び具体的取組」について、意識して積極的な推進に努めている。	40	C		◇ICTの活用など、教師のスキルアップのために必要な研修を3校合同で行うことができた。 ◆コロナ禍の影響で、共通実践事項や具体的な取組の中で実践できていないものがある。コロナの状況に合わせた実践について、3校で再確認していく。